

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成 23 年 1 月 13 日 (2011.1.13)

【公開番号】特開 2009-187732 (P2009-187732A)

【公開日】平成 21 年 8 月 20 日 (2009.8.20)

【年通号数】公開・登録公報 2009-033

【出願番号】特願 2008-25047 (P2008-25047)

【国際特許分類】

H 0 1 H 37/76 (2006.01)

【F I】

H 0 1 H 37/76 C

【手続補正書】

【提出日】平成 22 年 11 月 18 日 (2010.11.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

金属製筒状外囲器に感温ペレットおよび可動導電体を収容した 220 ～ 235 の動作温度を有する温度ヒューズにおいて、前記感温ペレットは主材料として結晶化度が 20 % 以上であるポリエステル系ポリトリメチレンテレフタレートを使用したことを特徴とする感温ペレット型温度ヒューズ。

【請求項 2】

前記ポリエステル系ポリトリメチレンテレフタレートは、共重合または耐加水分解処理したことを特徴とする請求項 1 に記載の感温ペレット型温度ヒューズ。

【請求項 3】

前記感温ペレットは、酸化防止剤と可塑剤または充填材とを感温ペレットに対して 5 重量 % 以下の範囲で補助材として添加したことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の感温ペレット型温度ヒューズ。

【請求項 4】

前記感温ペレットは、表面の一部または全面をフッ素樹脂またはガラスによりコーティングしたことを特徴とする請求項 1 に記載の感温ペレット型温度ヒューズ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

従って、本発明の目的は、上記欠点を解消するために提案されたものであり、温度ヒューズが長期に亘り高温雰囲気中で保管された場合に正常に作動しなくなるとか、高温環境下で保管された場合に変質や加水分解による融点低下を生じさせるとかのトラブルがなく、所定の動作温度で迅速かつ確実に作動する感温成型材を使用した新規且つ改良された感温ペレット型温度ヒューズを提供する。すなわち、所望する動作温度に調整でき、ペレットの成形加工を容易にすると共に、製造後の温度ヒューズが高温高湿状態で保管されたり正常使用されたりする場合、その環境下での経過時間中の変質劣化を防止すると共に、所定

の動作温度で即応作動する高精度の感温ペレット型温度ヒューズを提供することである。
また、感温ペレット型温度ヒューズの信頼性を高めるため、高温高湿状態で長時間保管した後も動作温度の変動を抑止し、経時的影響が出ない安定な感温ペレットを提供することである。要するに、結晶性熱可塑性樹脂のポリエステル系樹脂のポリトリメチレンテレフタレート（以下略称のPTTと称する）を感温ペレットの主材料に使用し、220～235 の動作温度を有する感温ペレット型温度ヒューズを提供する。